

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391100098		
法人名	社会福祉法人 順風会		
事業所名	グループホーム西城園		
所在地	熊本県宇土市戸口町906		
自己評価作成日	令和6年 11 月 1 日	評価結果市町村報告日	令和7年 1月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和 6年12月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は、海や山など自然豊かで閑静な住宅街に立地している。新型コロナウイルス感染症の発生も緩和し、地域の方との交流やボランティアの訪問を徐々に拡大している。施設内の行事(夏祭り・敬老会・クリスマス会等)をはじめ、季節感を味わう為に近隣への花見(桜)やあじさい見学、初詣など外出を行い入居者様方に喜んで頂いている。また、日常生活では入居者様の能力に応じた体操やレクリエーション活動を行い、機能低下の予防に努めている。職員教育は、施設外研修以外に毎月職員会議の勉強会で感染症対策、接遇教育、認知症ケア、虐待防止等の研修を実施、認知症対応型の施設で働く職員としてまた人間性を高める取り組みを行っている。また、自然災害の避難時の地域の方々へ協力をお願いや区長・民生員と地域をラウンドし、避難経路の確認を行った。また、電子化による業務改善を行い、記録はタブレット入力にした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者だけでなく職員も地域に馴染みのある方が多く、地域の中での生活がそのまま続いているような事業所です。以前からの取組みに加え、昨年のコロナ5類移行後は新たな取組みを試み、事業所を会場にした老人クラブと合同のレクリエーション開催や、地域と協働での防災マップ整備等についてうかがうことができました。法人理念・事業所運営方針に加え、「心に残る日々の暮らしを～明るく楽しく健やかに～」をスローガンに日々を過ごしておられ、入居者のタイミングに合わせ「可能性をのばす」支援で力を見出し、「家でやっていることができるような支援」を行われています。職員面談でも家族と協力し、入居者の生活の充実のために取組まれている様子が聞かれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理事長より、全ての職員が受講する理念教育が4月に行われる。また、月に1回の昼礼時に理念に関する講話があり周知している。それに基づきグループホームでも運営方針を作成し、また、理念につながる研修を行い、実践につなげている。	法人理念を礎とし、具体的にふだんのケアを表す事業所運営方針がある。4月には理事長より全職員に理念と意思を表される。事業所内でも共有するとともに、認知症研修の際にも、理念は職員の行動規範であることを示し、理念に沿ったケアについて話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは、いか祭りや除草作業などの地域行事へ職員が参加したり、地域の老人会と入居者との輪投げ大会を行い、交流を持った。また、例年近隣の金毘羅恵比寿大祭の参列に入居者と参列し、玉串を頂き、施設内に飾った。	運営推進会議等を利用して地域の情報を頂き、交流に繋げている。今年度は地域の老人会と合流で催し物を開催したり、ボランティアの受入れ、地域清掃への職員参加他、入居者も交え様々な交流を行った。今年度は地域で懸念されている災害に備え、地域との現状・対策等の共有を行った。	コロナ禍が明け、従来からの地域との関わりに加え、新たな取組みに向け力を入れておられる様子がありました。入居者の介護度も年々高くなってきていると思いますが、今後も入居者と地域を繋ぐ取組みを継続して頂けるよう期待しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西城園便りやパンフレットなどの配布をしたり見学や相談にも即対応している。地域の集まりに参加し、介護に関する相談場所として受け入れを伝え、また、介護支援事業所等からの認知症の方の相談にも応じ、必要なアドバイスをを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月でご家族代表・区長・老人会長・民生委員・地域包括支援センター・行政の方等の参加がありサービスの内容や事故報告、行事活動等の報告を行い率直なご意見を頂き、サービス提供に反映している。今年の10月の会議では、施設で行った認知症研修内容を紹介し、簡素を頂いた。	年6回の運営推進会議では事業所の現状及び取り組み報告の他、意見交換も活発に行われている。立地面からの心配もあり、災害の話題が度々出る事から、今年度は地域役員の方々と管理者が地域を歩き、避難路の状況確認や必要人数等を地図作り上げ、地域との共有に繋がった。また、認知症ケアについての法人研修内容を推進会議でも説明し、地域・家族への認知症啓発も行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	病院・居宅支援事業者・地域包括支援センター等と連携を密にし空き状況や待機者数の報告を行い、利用者の受け入れの相談と受け入れ後の情報を共有している。また、生活保護者等の困難事例の受け入れも行っている。	行政及び地域包括支援センターから運営推進会議への参加があり、事業所の取組みを伝えている。日頃の報告連絡相談の他、入居者に関する相談・報告や手続き等、協力関係の構築に取り組んでいる。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っている事例はない。研修(年2回)や勉強会にて身体拘束の指針や拘束に当たる事例を紹介し理解を深めている。管理者が月1回の身体拘束廃止委員会の会議内容を職員会議に伝達共有している。施設ではスピーチロック廃止に努力している。	身体拘束をしないケアを行っている。年2回身体拘束廃止・虐待防止研修会を実施している。法人の身体拘束廃止・事故防止委員会には毎月管理者が参加し、状況確認と対策を話し合い、事業所職員会議で報告・検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞やテレビ等で虐待防止に関する事例が出た場合は職員にも通達する。また、毎月の昼礼等で理事長からの虐待防止に関する注意喚起の訓示や年に2回の権利擁護の研修を行っている。日常の関りで気になる行動は注意喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度利用者1名ご利用されている。入居者のご家族からの相談があり、情報提供している。また、高齢者が抱える法律問題などの研修に参加し、地域包括支援センターなどの困難事例に対応するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時より、契約や解約時また介護報酬改正の際も契約書の改定や重要説明同意書を用いて十分な説明を行っている。その際の疑問点や不安な点があれば十分説明し理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来園時や担当者会議でご家族と話し合う機会を持ち、ご家族からの要望やご意見を聞いている。又、ご家族に入居者の情報の報告や相談を随時行いご意向を聞いている。苦情が出た場合は苦情解決委員会を開催し適切な対応を検討している。	面会や運営推進会議等家族来訪時の他、電話等でも家族へ入居者の状況報告を行い、意見・意向を得る機会としている。担当者会議には家族にも同席して頂き、入居者の現状報告と共にケアについても意向を確認している。介護計画でも「御家族との連携をまめにとる」の記載が確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で各委員会の報告や入居者様の事例検討やケアについて情報共有と対策の検討を行っている。又、管理者研修では運営方針に関するワークショップに参加、サービス向上・働きやすい職場・健全経営に関する意見を出してもらっている。	職員は日頃より管理者や運営者に意見や提案を表すことができる。毎月の職員会議時も職員の意見の募り、ケアだけでなく運営等にも意見を表すことができる。	

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々との面談を行い、ワークライフバランスを考えた勤務管理を行い離職につながらない働きやすい職場環境を目指している。希望休や家庭環境に応じた勤務体制を整えるなど努力している。辞職率は低い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や法人の教育計画に沿った研修はもとより、キャリアアップや資格取得の為に外部研修を受講している。前年度は認知症介護実践者研修受講。本年度は介護福祉士の国家試験対策で3名の職員と勉強会を行い1名が合格。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に出席し、職員の働きやすい職場作りなど情報交換を行い、気軽に意見交換できるネットワークができています。本年3月には熊本県介護人材確保支援事業で宇土市の三法人合同研修を2回行い、各施設での取り組みと今後の課題を話し合った		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の段階から関係事業所やご本人やご家族の情報から生活状況を把握し受け入れ態勢の整備を行っている。又、入居時はご本人やご家族の希望を言葉や表情から読み取れるようなかわりを持ち、初期段階から職員間の情報共有を密にケアに当たり、ご家族へも報告相談しながら、安心して過ごしていただくようご本人に寄り添った対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用初期の段階からご家族の意見を聞き取り、相談しやすい関係づくりに努めている。入居後の生活を具体的に報告し、生活習慣や生活歴を確認し、面会や電話で報告・相談を行い、不安や心配の解消に努めている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのサービスの仕組みの説明を行ったうえで他の通所や短期入所・入居系・訪問系のサービスの説明を行っている。また、法人内にあるサービスとの連携についても提案し、終末期も含め将来的に必要なサービスの利用の在り方や対応の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の視点から利用者様ができることを無理がない程度でやっていただき、できないところを支援している。自宅での日常生活に近い雰囲気を出すことに努め、洗濯物たたみや食材料の皮むきや食器洗い、お盆拭き、新聞の片づけなどその方の能力にあった家事を職員とともにやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関の受診は可能な限り、ご家族に同行して頂くようにしている。面会時にご家族へ日頃の生活についても報告している。また、帰宅欲求がある場合は、ご家族とご自宅へ外出したり、電話での対話していただくなど気持ちが落ち着き安心できるよう工夫をしている。また、ご家族とのドライブや外食など行う機会を提供している。施設内の行事・レクリエーション活動を写真入りですべてのご家族へ郵送にて報告し、生活ぶりをお伝えしている。台風で避難が必要な時、1名だけが自宅に避難された。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスが落ち着いてきた為、対面で面会を行い、関係が途切れないよう支援に努めている。また、法要や誕生会などは条件付きで外出を許可している。また、近所の面会もある。	コロナ5類移行後、家族だけでなく知人の来訪も受け入れている。地域との行事の際には近隣住民や知人の来訪もあった。入居者と家族の外出・外食等もできるかぎり支援している。入居者に馴染みのある場所での花見や祭り等には計画をたて出向いている。事業所では「家でやっていることができるような支援」に取組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間は、ご利用者同士が交流スペースの椅子やソファに座り、それぞれ楽しく会話が出来る環境を作っている。また、新しいご利用者は、職員が声掛けを行い、どのご利用者と関わりあえるか、席の入れ替えなどを行い関係づくりの支援に努めている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合などは定期的に病院訪問や電話にて体調面などの情報を把握、面会できる場合は面会し、ご家族にも近況をお聞きしたりして関係性の継続に努力している。他施設への入居になっても機会あるごとに面会して。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族やご利用者の意向を十分に聞いたうえで、ご本人の思いを家族と共有している。帰宅欲求や不穏傾向の方には時間をとり傾聴の姿勢で対応している。又、日々の生活のなかで無理強いしない対応に心がけており、例えば入浴日を決めずに本人の希望や声掛けを行い可能な限り実施している。収集癖のある方には思いが固執しない話題を提供、気持ちの切り替えができる関りと工夫をしている。	現在の入居者は思いを表すことができる入居者も多くみられ、日頃の職員の寄り添いや会話等で把握しており、家族の意向も確認している。理念・運営方針から繋がるスローガンを「心に残る日々の暮らしを」～明るく・楽しく・健やかに～とし、入居者本位の生活を送ることができるよう取り組んでいる。以前得意だったこと等の情報も参考に生活に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人、入居前の介護サービス事業から情報収集するとともに、本人と普段の会話の中から昔の思い出、職歴、家族のことなど生活歴を把握し、大切な思いを尊重しながら、日常の支援や会話につなげ、自室で過ごされていた方がホールでの会話を楽しまれるようになった。自宅で嗜好品を施設でも同じように提供するなど、本人や家族から得た情報を職員間で共有し満足度の向上に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の生活歴を踏まえた上で、心身状態に合わせた支援を行っている。一日の過ごし方や行動を十分に観察し、新聞を読む時間や静養時間を持つなどできる限り希望に沿った過ごし方を尊重し、職員同士が情報共有しケアを行っている。また、居室に引きこもりがちな利用者がおられたが声掛けを行いレクリエーションや行事の参加を促し、昼間はホールで過ごされるようになった。又、ADL維持のため、毎日、健康体操や作業療法を行っている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議や日々のミーティング・申し送りで現状を把握・共有し、意見を出す事でチームとして統一したケアができるようにしている。また、モニタリングやアセスメント後に半年ごとに担当者会議を開催し、ご利用者・ご家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。	日々の記録等の電子化で、申し送りに加えより職員間での情報共有ができるようになった。モニタリング・アセスメントは入居者それぞれの担当職員を中心に、記録や職員会議での職員の意見等からケアマネージャーと介護計画作成担当者が主になり介護計画を作成している。担当者会議は家族を交え行われており、事業所・家族・関係機関が共に入居者を支える計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護経過記録に、プランに沿ってご利用者からの訴えや状態、職員が気づいた点など記録し、職員間で情報を共有するようにしている。また、モニタリング・アセスメントを行い介護計画作成及びケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれてくるニーズに対応できるように普段から様々な視点で観察し、ご家族に報告・相談・協力しながら支援を行っている。残存能力に着目し職員の「気づき」を大切にケアを行っている。具体例では、夫婦での入居支援、誕生日などの外食支援、地域のイベントへの参加など施設外への外出を推進している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や区長からの情報より、地域資源の把握をし活用に努力している。ご利用者が地域住民の一人として参加できるように、地域行事への参加やボランティアを受け入れている。近所の恵比寿大祭の式典への参列や網田地区の趣味の作品展に利用者の作品を出展した。また、災害避難ルートの確認のため区長と施設周辺をラウンドし、避難ルートの確認を行い災害避難時に備える、また11/27老人会との交流輪投げ大会を行う予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は、ご利用者やご家族の希望を大切にし利用前の医療機関を継続して受診している。また、協力医による往診・受診や訪問歯科も行っている。症状に応じ、泌尿器科・皮膚科・眼科などの専門医への受診の通院支援も行っている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。協力医・歯科の往診もあり、専門医受診の際には職員にて通院介助するが、家族付き添いの場合もある。看護師資格を持つ施設長が常駐していることから、入居者の健康管理や処置等、適切な医療へ繋がっている。	

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気付いた異常と思われる変化や怪我について時間内外に問わず、看護師へ報告・相談し適正な指示を受け迅速な受診や処置を行っている。また、ご利用者の健康管理・服薬管理を行っている。点滴などの医療行為が継続的に必要な時は自助で行う場合もあるが、訪問看護と協力し治療を行っている。入院にならないよう早めの受診と適切な処置に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関へ施設での生活状況やADLなど細かな情報提供を行い、安心して治療できるように努めている。入院中は、治療計画、治療状況の確認を行い、できるだけ早期退院ができるよう担当医と話し合い、ADLの低下や認知症状の進行の予防をお願いしている。退院してもできるだけ、入院前と同様の生活ができるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設で出来る対応と重度化や看取り期の説明を行っている。入居時はもとより、時期が来た段階又は早めの段階で、ご家族に終末期のあり方のご意向を聞き、ご家族・管理者・看護師・協力医・訪問看護などとカンファレンスを行い、協働してより良い看取りや終末期のケアが出来るように取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針と対応について説明している。実際にその時期となった際には家族・医師・訪問看護等関係機関とも検討・話し合いを重ね、本人にとってより良い時間が過ごせるよう支援を行う。日頃の生活の中で入居者の生活の継続が困難となった際には、希望に応じて法人他事業所や病院への住み替えも支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、消防署に協力いただき応急手当やAEDの使用方法や初期対応などの施設内研修を行っている。また、急変時の対応・連絡・救急搬送など迅速な報告連絡相談の実践できるようにしている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災による避難訓練を入居者を行っている。台風の被害が懸念される場合は、法人本部へ早めの避難を数回実施している。その際、ご家族や区長、地域の方へ避難した旨の連絡や備蓄食、ご利用者の私物、必要物品の運搬についても計画的に行える体制を築いている。今年度はご家族にも協力を得て1名自宅避難された。	年2回消防訓練に加え、今年度はBCPに準じた訓練も行った。今年度は台風に備えた避難で法人本部へ一晩避難し、入居者一人ひとりの準備物の確認・振り返り等も行った。近隣住民の方には消火器を使った消火訓練に参加頂いた。災害に備え、避難状況や避難経路等の共有を地域とも行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の個性に応じた人格を尊重し、個々の対応を行っている。また、状況に合わせ、目線を合わせた声かけ(スピーチロックにならない声かけ)を行い、安心して過ごしていただけるケアを心がけている。接遇委員会や職員会議の研修を通して、倫理観を高める活動を行っている。申し送り時に排泄状況などについては、居室番号や記号を使用しプライバシーを損ねない対応を行っている。	入居者の生活歴や心身状況を職員間で共有し、それぞれに合わせた声掛け等を行い、一日を通してそれぞれの過ごし方を支援している。声の掛け方には特に配慮し、職員研修等でも学びを続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で、ご利用者の気持ち、希望を確認し選択できる環境を提供している。入浴時の着替えの準備など選択してもらったり、自己決定ができないご利用者に対しては表情や感情、ボディールンゲージで確認。また、利用者がご家族と会話の時間を持てるよう面会や外出など意思表出できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは決まっているものの、一人ひとりのペースに合わせ、本人の意志に沿うように起床時間やレクリエーション、行事への参加、入浴、静養時間など、できるだけ希望にそった余暇の過ごし方になるよう支援している。		

グループホーム西城園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類や通院時・外出時の服装について、ご利用者と一緒に選んでいただくようにしている。女性のご利用者で、髪を切りたいと希望される場合は理髪店にお願いする。また、衣類と一緒に選び、身だしなみに配慮し、その人らしい身だしなみの支援をしている。起床時の洗面（眼脂）や髭剃り、頭髮（寝ぐせ・散髪）、服の汚れなどにも十分に配慮して支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日は行事食で赤飯の提供、四季や行事に合わせ栄養管理された手作り料理や果物を提供している。また、恵方巻の巻きずしを巻いてもらったり、食材の皮むき、食器拭き、お盆拭きなどの家事を手伝っていただいている。また、おやつや誕生日ケーキも手作りで提供している。	事業所で手作りの食事を提供している。毎月1日の赤飯や季節の行事を大切に献立であり、誕生会では手作りケーキを提供している。入居者でお手伝いができる方には参加頂き、職員と一緒に作業する姿も見られる。それぞれの摂食状態により、食材の大きさや状態での提供を行い、体調等による臨機応変な対応も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された季節を感じる料理を一人ひとりにあった食事形態（一口、キザミ、ミキサー食・ご飯・お粥など）で栄養状態、嚥下・咀嚼機能にあわせ提供している。水分補給については、お茶・麦茶・コーヒー・牛乳・ジュースなど選択できる様にし、1日1000cc以上の水分摂取できるようにしている。また、食事介助などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は介助で口腔内の清潔を保っている。また、必要な方には、定期的（月数回）に訪問歯科の衛生士による口腔内の観察・ケア・義歯調整や治療を行っている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には、排泄訴えのある方は、自らトイレに行っているが、排泄訴え尿意がない方は、定期的トイレ誘導だけではなく、排泄パターンを把握し言動や行動から排泄のタイミングを察知し、支援を行っている。また、安易にオムツやリハビリパンツを使用せずに布パンツやパットを使用しただけトイレで排泄できるように支援している。	安易なオムツやリハビリパンツへの移行は行わず、できるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。時間による声掛けだけでなく、本人のパターンや仕草・様子を見逃さず声掛けを行い支援している。失便がひどい時にはシャワーしたりと清潔にも配慮している。夜間はポータブルトイレの利用やオムツ使用等それぞれであるが、睡眠を妨げないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性の便秘症の方も多いため、一人ひとり、看護師が協力医に相談して対応している。排便回数をチェックし、薬剤投与を行っている。水分量の確保が難しいご利用者には、飲み物の種類(緑茶・麦茶・コーヒー・牛乳・ジュース)を変えて提供している。また、水分補給量は、1,000ml～1,200ml、回数を分けて摂取していただいている。どうしても飲水が出来ない方は水分補給目的で輸液投与も行うこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めずにできるだけ希望に応じて、午前・午後など利用できる(週2～3回入浴)ようにしている。入浴は1対1で行い、湯船の中でゆっくり話しができる雰囲気を作り、歌や昔の話、時には悩みを打ち明けられる場所になっている。菖蒲湯や柚子湯など季節のお風呂も楽しんでいただいている。	週2回程度を基本とし、毎日午前・午後希望によって支援している。汚染が見られる際等、状況によっては回数も増える。できるだけ浴槽を利用しゆっくりと過ごして頂くが、介護度が高くなるとシャワー浴となり、その際はより良い生活環境への移行(住み替え)の検討を始める時期とも捉えている。入浴後の服選びは本人に選択を促す機会作りの一つとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の健康状態や生活習慣、個々の状態に合わせて休息を取っていただいている。また、交流スペースのソファでも休んでもいただいている。睡眠薬は極力使用しない方向で対応し、夜間起きられる入居者には会話をしたり、白湯を飲んでもらったりして入眠を促している。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋を管理し、いつでも情報が得られるようにしている。処方の変更時は管理者・看護師が職員に伝達し、情報共有し症状の変化を確認・報告している。服薬の際、誤薬予防のために二重のチェックを行い、飲み込まれるまで確認を行っている。拒薬の方もおられるので工夫して飲んでもらう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の役割として主婦の経験から野菜の皮むきや食器拭き、お盆拭き、洗濯たたみなど家事や得意な調理を一緒に行っている。新聞読みを日課にしておられる方、水戸黄門のテレビを見られる方等の大切な時間を過ごしていただけるよう支援している。新聞を読まれない方でも職員がローカルな内容の記事を読みながら紹介していくと会話が弾み喜ばれる。また、コーラスや塗り絵も熱心に取り組まれる。ボランティアの方へのお礼の言葉を入居者より伝えてもらうなど能力に応じて発言の場を作っている。誕生日は受持ちの担当職員より、バースデーパーティーを企画、手作りのケーキでお祝いをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や季節の花見、ドライブなど外出を行っている。また、ご家族の希望や思い出つくりの為外食に出かけたり、お寺参りをされる。さらに、祭りや地域の行事、近隣への散歩なども職員と一緒にいり外出を推進している。	近隣の散歩は日常的なものであり、地域住民との触れ合いもある。家族の協力を得た外出もみられる。季節毎の花見や地域行事や祭りの見学等も職員と出向いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の下、施設でお金を預かっている。必要に応じて、職員と一緒に外出して買い物を行ったり、ご利用者が欲しいものを職員が代理で買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話は設置していないがご利用者の希望時は施設の電話を使用いただいている。自分でかける事のできないご利用者には、職員が代わりにかけたり、伝言したり支援を行っている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はご利用者が食事や休息を取ったり、長時間過ごす交友の場所である為、室温やにおいなどに注意を図り、環境整備に配慮して居心地よく過ごしていただけるように努めている。また、季節や暦に応じて、ご利用者と一緒に飾り造りや飾りつけを行ったり、季節の花を飾り、話題にしたりして会話が盛り上がる。	リビングスペースには食卓と思いいに過ごすことができるスペースが分けられており、職員と語らったり作業を楽しんだり、それぞれに過ごす時間が見られる。窓からは入居者に親しみのある景色を臨むことができ、生活の延長を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思いいに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士でテーブル席やソファに腰掛けていただき楽しい会話ができるように、座席の配置を工夫している。ご利用者同士で座ることにより安心されたり、自由に場所を選べるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具や身の回りのものを持ってきていただく事で、入居時に安心できるようにご家族と協力している。ご家族との写真や誕生会の写真・色紙、レクリエーションの作品を飾り、ひとり一人に温かみのある居室で過ごしていただけるよう工夫しているが認知症の状態(異食をする方・収集癖の方等)に応じては私物を置けない方もいらっしゃる為別に管理している。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼しており、家族写真等、家族の関わりを感じることができる居室である。移動の妨げにならないよう、また行動の制限にならないよう、中には異食をされる方等には個々に合わせ、手摺りの位置や向き等安全にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーの建築であり、廊下の手すりの位置も工夫して設計されている。また、麻痺などがあるご利用者でもトイレの左右の手すりを使って排泄ができるように整備している。場所や日付の表示の工夫をしている。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホーム西城園

令和 7 年 1 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	28	職員の入居者への支援を通し家族との繋がり見えにくい 運営事業への参画が薄い	担当職員の活気ある 支援体制の強化	・支援計画の立案と評価に主体的に取り組む ・職員と家族の情報共有 ・運営推進会議へ職員参加	1年
2	18 19	面会以外の家族との交流の場がない	入居者のご家族の交流の場づくり	・ご家族参観日の検討 ・定期面談日に希望に沿って食事会の計画	3ヶ月
3	29	地域とのつながりの継続	輪投げ大会の定期開催	・年2回の輪投げ大会 ・地域行事・災害対策等への参加	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。